

## 名古屋支店が 開設一二〇周年

▼名古屋支店は、東海経済の発展を願う地元政財界からの要請もあって、明治三十年（一八九七年）、日本銀行の六番目の支店として開設されました。現在の業務区域は愛知、岐阜、三重の三県です。



120周年記念ロゴ（地域への感謝を込めて対外公表物等に掲載）



2代目営業所の外観（日本銀行金融研究所アーカイブ所蔵）

▼一三〇年の歴史の中で、名古屋支店は市内を数度にわたって移転してきました。明治三十九年（一九〇六年）に完成した二代目営業所は、日本銀行本店本



現営業所（昭和39年に完成後、昭和55年に増築）

館と同じ辰野金吾博士が設計した重厚な建物でしたが、昭和二十年（一九四五年）の空襲で焼失してしまいました。昭和三十九年（一九六四年）に完成した現在の店舗は六代目となります。

▼東海経済は大きな発展を遂げ、今や製造業を中心に世界有数の競争力を有する産業の集積地となり、今後もさまざまな次世代産業をリードしていくことが期待されています。名古屋支店は、活力にあふれる東海経済の歩みを金融面からしっかりと支えるため、銀行券供給などの中央銀行業務の着実な遂行、金融システムの安定性確保に努めました。これからも地域の皆様のお役に立てるよう責務を果

たしていきます。

## 企業物価指数・二〇一五年 基準指数の公表を開始

▼日本銀行は、企業物価指数の五年に一度の基準改定を実施し、本年二月十日から二〇一五年基準指数の公表を開始しました。

▼今回の基準改定では、二〇一五年十二月に基本方針を公表し、皆様からお寄せいただいたご意見も踏まえ、本年二月三日に「企業物価指数・二〇一五年基準改定結果」を公表しました。基準

改定のポイントは、①経済・産業構造の変化を物価指数に的確に反映するための新しい財（例えば燃料電池など）の取り込み、②外部データの積極的な活用による報告者負担の軽減や、通関を経由しない輸出入取引の新たな取り込み、③ヘドニック法の適用範囲の拡充や、調査先企業からの情報に依存しない新たな品質調整方法の導入、④基礎資料に制約がある状況のもと、ウ

エイトの算定に代替的なデータを用いることによるタイムリーな基準改定の実現、の四つです。

▼日本銀行では、統計ユーザーの皆様にとってより使いやすい統計を提供するため、これからも努力を続けてまいります。

▼詳細は日銀HPをご覧ください。

[http://www.boj.or.jp/research/brp/ron\\_2017/ron170203a.htm/](http://www.boj.or.jp/research/brp/ron_2017/ron170203a.htm/)

## 「第二回日銀グランプリ 〜キャンパスからの提言〜」 の決勝大会開催

二〇一六年十二月三日（土）

▼大学生を主な対象とする金融経済分野の小論文・プレゼンテーションのコンテスト「日銀グランプリ」に、今回は全国三八大学から一一八編の論文が寄せられ、一次審査を通過した五チームにより決勝大会が開催されました。

▼決勝大会では、朝田照男氏（経済同友会副代表幹事、丸紅株式

## 編集後記

■インタビュー「扉を開く」のインタビュアーとして、これまで三人の方のお話を伺う貴重な機会を頂きました。最初の将棋棋士・羽生善治氏は、年齢を重ねる中で「直観」、「読み」、「大局観」の比重を変化させ、さらにコンピューター・人工知能を使いこなす自らの実力をさらに高めようとされています。続くプロサッカー監督・高倉麻子氏は、テクニック、状況判断力に磨きをかければ世界で勝てるという確信を踏まえ、各選手が激しくかつ論理的に自己主張し合い理解し合うことで、組織と個の力を高めて世界一を目指しています。今号の建築家・坂茂氏は、建築家は弱者のためにも貢献すべきとの信念のもと、世界の被災地で「紙管」という全く新しい建築素材を用いて被災者を支援され、さらに独自の建築材料や構造システムの開発を目指しています。三人の方に共通するのは、蓄積された経験を基に本質を見極め、イノベーションを興し、自ら新しいスタイルを築こうとする未来志向の姿勢です。このインタビュアーの仕事は、こうした賢人の前向きな姿勢に大きな刺激を受ける素晴らしい役得です。次回夏号は天皇陛下の手術を執刀された心臓外科医・天野篤氏にお願いする予定です。ご期待下さい。(鶴海)

※本誌は、全国の日本銀行本支店および貨幣博物館、旧小樽支店金融資料館等でお配りしています。個人の方の定期購読、郵送はお取り扱いしておりませんのでご了承ください。なお、既刊号全文をPDFファイル形式で日本銀行ホームページ上に掲載していますのでご利用ください。

([http://www.boj.or.jp/announcements/koho\\_nichigin/index.htm/](http://www.boj.or.jp/announcements/koho_nichigin/index.htm/))

※本誌に掲載している内容は、必ずしも日本銀行の見解を反映しているものではありません。日本銀行の政策・業務運営に関する公式見解等については、日本銀行ホームページ (<http://www.boj.or.jp/>) をご覧ください。

にちぎん 2017年春号  
編集・発行人 鶴海誠一  
発行 日本銀行情報サービス局  
〒103-8660  
東京都中央区日本橋本石町2-1-1  
☎03-3277-2405



デザイン 株式会社市川事務所  
印刷 文唱堂印刷株式会社  
©日本銀行情報サービス局 禁無断転載

会社取締役会長)、鳥海智絵氏  
(野村信託銀行株式会社執行役



決勝進出5チームと審査員の皆さん

(写真：野瀬勝一)

社長)の他、岩田規久男日銀副総裁(審査員長)、原田泰・布野幸利両政策委員会審議委員の五名の審査員を前に、各チームとも堂々とプレゼンテーションと質疑応答を行いました。▼最優秀賞には、東京理科大学経営学部チームの「きものな休日 神楽坂」地域通貨「神楽坂きもの小判」ときものレンタルを利用した『和の街づくり』が選ばれました。「統計データや独自アンケートから着物レンタルの潜在需要を分析し、レンタル着物店や神

楽坂商店街におけるヒアリング調査をすることにより、神楽坂商店街の抱える問題を明確にしている」点などが高く評価されました。この他、優秀賞に学習院大学経済学部チーム、弘前大学文学部チーム、敢闘賞に東京経済大学経済学部・経営学部チーム、中央大学経済学部・法学部・商学部チームが選出されました。▼審査員からは、「多様な問題点や課題を把握し、統計データに加え、実務家への聞き取り調査やアンケート等を通じて、自

身の抱いた問題を解決しており、具体的で実現可能性を感じさせるものだった」との総評がありました。▼日銀グランプリについては、日銀HPに専用コーナーを設け、決勝参加チームの作品全文と審査員講評および奨励賞論文の要旨を紹介しています。また、同コーナーやYouTubeでは決勝大会の模様を収録した動画も配信しています。

